



いわて・みやぎ・ふくしま No. 1 便り

2019年
5月8日発行

日本生協連
組合員活動部

2019年度最初の「いわて・みやぎ・ふくしま便り」をお送りします。

東日本大震災から8年が経ちました。これからも復興に向けて歩いていく被災地の皆さまに寄り添って、全国から支援活動を行っていきましょう。



ボランティアバス 田老町漁協でわかめの袋詰めへ



いわて生協では、震災直後の2011年6月から被災地へのボランティアバスを開始し、2018年度まで陸前高田市、大槌町を中心に179回実施し、6,509名が参加しました。陸前高田市、大槌町での活動は18年度で終了しましたが、今年も宮古市田老町漁協へのボランティアバスは継続します。

3月24日、30日、31日の3回、田老町漁協で、塩蔵されたわかめの袋詰め作業を行いました。「産直真崎わかめ」を生産している田老町漁協での活動は2014年より開始。わかめの収穫や加工は3月半ばから1ヶ月間に集中します。震災前は漁協周辺の方がアルバイトに来ていましたが、震災で周辺の住宅は被災し、住居は高台へ移転したことから作業する人手が足りないため、ボランティアで応援しています。

今回はコープデリ連合会の職員も3日間で32名も参加いただきました。24日はそのパワーで12キロコンテナで1300ケース詰めることができました。

震災から8年経った、宮古市田老地区の様子を田老町漁協の鳥居高博工場長にお聞きしました。「震災後、数年かけて描いた街並みが、8年目をむかえてようやく見えてきたように感じます。街の中心部はかさ上げが終わりましたが、国道より海側は居住できなくなったので、道の駅や野球場となりました。田老地区全体では予想を上回る人口減少で、震災前には4,400人ほどいましたが3,000人を割ってしまいました。何をするにも人手不足で将来の不安も感じます。みなさんが来てくれたおかげで、作業もはかどるし従業員も休ませることができ感謝しております。」



今年のはわかめは全体的に収穫が少なく、価格は高めとのこと。買って応援いただける方は、ぜひ「真崎わかめ」をご利用下さい。取扱のない生協の方は、田老町漁協のホームページからご利用できます。



くらし・地域復興応援募金のご協力ありがとうございます

2018年度は、全国20の生協・団体より「くらし・地域復興応援募金」として1,341万円が寄せられました。2011年度からの累計では1億2千万円以上にのぼります。心より感謝申し上げます。

4月24日にはコープみらい様からの募金贈呈式を大槌町の菜の花畑で実施しました。ここは、いわて生協のバスボランティアでも活動に参加した「菜の花プロジェクト」の場所で、コープみらい・コープデリ連合会の職員のみなさんもボランティアで活動した場所であることから、菜の花咲く、大槌町の河川敷での開催となりました。

引き続き、みなさまからいただいた募金を大切に使用していただき、東日本大震災と台風10号での支援活動を続けてまいります。



宮城県沿岸部を中心とした被災地のスタディツアーを開催

みやぎ生協では、宮城県沿岸部を中心とした被災地を自身の目で見て学ぶ企画を実施し、広報誌などで参加を呼びかけています。3月16日、親子4組を含むみやぎ生協の組合員32人が南三陸町を訪れ、宮城県漁協志津川支所や、震災語り部のお話を聞きながら町内を視察しました。



(全国からの応援の旗の前でのお話)

漁協では、志津川カキ養殖部会長の行場博文さんより、「みやぎ生協をはじめ全国の生協からの支援のおかげで、すべての養殖施設を失った状況から現在のカキ剥き場が再建できた」と感謝の言葉がありました。

午後には語り部の方と一緒に旧防災対策庁舎、旧戸倉中学校、高野会館を視察。戸倉中学校は約15mの高台にあるにも関わらず津波が来たこと、地震が起これば高いところに早く必ず逃げてほしい、などのお話を伺いました。さらに、南三陸町に足を運

び今のまちを覚えておいてほしい、そして復興を見守ってほしい、ともお話がありました。

参加者からは「カキ生産者の方の長い間のご苦勞に頭が下がります」「語り部のお話は 100 冊の本にも勝る時間だった」との声や、子どもたちからも「津波のこわさをした」「教えてもらったことを避難訓練の時にいかしたい」などの声が寄せられ、親子で防災を考える機会になりました。



(旧防災対策庁舎周辺の復興祈念公園の整備の様子)



くらし・地域復興応援募金のご協力ありがとうございます

4月23日、コープみらい、コープデリ連合会の役職員がみやぎ生協に訪れ、「くらし・地域復興応援募金」の贈呈式を行いました。

災害が多かった2018年も、東日本大震災を忘れず、想いを寄せ続けてくださる多くの組合員の皆さまに心より感謝するとともに、募金をお寄せいただいた皆様に、被災地の今の様子をしっかりとお伝えしていきたいという思いを新たにすることができました。



(募金贈呈の様子)

2018年度も、コープみらいをはじめとする全国の生協の皆さまより、募金など多大なるご支援をいただきました。2019年度の被災者支援の取り組みに活用させていただきます。本当にありがとうございました。



エフコープの皆さんと交流を行いました

エフコープの組合員・職員の皆さん計17名がふくしま視察を行い、4月12日に福島市の県復興公営住宅集会所で住民の皆さんと交流および昼食会を行いました。公営住宅からは17名の皆さんが参加。すぐに打ち解けた様子で福岡のお菓子や果物を一緒に食べながら、おしゃべりに花が咲きました。エフコープの皆さんは、避難した時のことや故郷のこと、ここでの暮らしなど、住民の皆さんのお話に熱心に耳を傾けました。この公営住宅には、浪江町や飯舘村など、いくつかの町村の方々が暮らしており、もう一度一からコミュニティを作り上げていかなければなりません。交流

会は住民同士が仲良くなる場にもなっています。

皆さんで昼食をとった後、炭坑節の盆踊りが披露され、住民の皆さんも一緒に輪に入って交流を深めました。



(エフコープの皆さんとの集合写真)



飯舘村で避難解除後初めての交流会を開催しました！

コープおおいた組合員・職員の皆さん計8名がふくしまの被災地を視察し、飯舘村の集会所で帰村された皆さんとの交流会を行いました。



(交流会の様子)

飯舘村の避難指示の解除に伴い、福島市松川第2仮設住宅が3月いっぱい閉鎖になったことから、定期的に鶏めしや団子汁の炊き出しを行ってきたコープおおいたの皆さんが飯舘村を訪ねました。

集会所には再会を喜ぶ方、初めて顔を合わす方もいましたが、避難先でのことや村での暮らし、これからのことなどが語られ、コープおおいたの皆さんは熱心に耳を傾けました。飯舘村の皆さんからは、凍み餅のふるまいもあり、心通うひと時になりました。



くらし・地域復興応援募金のご協力ありがとうございます

4月9日、コープみらいから4名の方が来福され、支援金の寄付が行われました。コープふくしままで贈呈式を行った後、県営復興公営住宅の北沢又団地大和田集会所（福島市）を訪問し、公営住宅にお住いの皆さんと交流をしました。コープみらいでは、双葉町住民が埼玉へ集団避難されていた時から継続的に支援活動を行っています。参加者の方は「忘れないでいてくれることがありがたい。」とお話しされています。お土産のお菓子を頂きながら楽しい交流となりました。



(募金贈呈の様子)



(交流会の様子)

